

# 「大学における LMS を活用したアクティブ・ラーニング型授業の実践」

～ICT を活用できる教師の育成を目指して～

The practice of Active Learning in universities with LMS  
-to be a teacher who excel in ICT-

浅見和寿（人文学部共通領域部）

Kazutoshi ASAMI (Department of General Studies)

## 1 はじめに

私は、平成 29 年度から本学で「教育方法論」の授業を担当している。この授業は、教員免許（高校）を取得するための必修科目であり、受講生は近い将来教員になり、授業を行う学生たちである。その学生たちにどんな教育方法を教えるべきか。

数年前から、高校の現場では、文科省が提唱している「主体的・対話的で深い学び」を実現するために移動式の机や椅子が準備され、各教室のプロジェクターの取り付けも着実に進んでいる。また LMS も普及し、Google 社「Google Classroom」や Classi 社「Classi」等が導入されている学校もある。

つまり「アクティブ・ラーニング（以下 AL）」型の授業や「ICT」を活用した授業を展開することが推奨されているのである。

以上のような状況から、学生たちが教員になる頃には「AL」や「ICT」が今以上に浸透していることが予想されるため、今回の「教育方法論」の授業の最終目的を「LMS を使った AL 型の授業や ICT 機器を使った教育方法に触れ、実際に自分たちでも授業を作り、実践する」ことに設定した。よって本稿では、その実践を報告する。

## 2 LMS (Moodle) ×ICT

本学では、LMS として Moodle (図 1) が採用されているので、Moodle を軸に据えた授業を行うことにした。まずは、事前準備として、授業者が Moodle に講座のページ (コース) を作成し、学生たちの大学メールアドレスを登録する。そこに授業の指示や課題を入れて、資料や URL 等を添付しておくことで、学生たちはそこからダウンロードしたり、動画を視聴したりすることができる。以下にその実践例を報告する。

### (1) スマートフォンやタブレットの活用

まず事前に、Moodle に外部サイトの URL をアップロードしておく。そうすることで、各々のメールアドレスに課題の指示が届き、学生は授業前にサイトの概要について理解することができる。また、授業前に理解することで、それらについて考察する時間も与えることができる。



図 1 Moodle 授業内容



ッピングシートを他の学生と共有することにより、優先席に対する自分の考えを更に深めていく。その後、「優先席の是非」について 600 字で小論文を書かせ、私自身のマッピングも見せて、全体で情報の共有を図った。

学生が書いた小論文は、優先席に賛成・反対どちらの意見もあった。このように答えがないオープンエンドの間に対して、根拠をもって自分の考えを持つことが重要なのである。そのためには、独りよがりにならず、客観的な視点を常に持つことが重要であり、他者との対話により学びを深める AL 型授業は最適であると私は考えている。

## (2) KJ 法

「現在教員になるために何が必要か」をテーマに KJ 法 (図 4) を使った授業を行った。事前に KJ 法については調べてくるようにという指示を出しておいたので、スムーズに授業は進んでいった。学生たちには、付箋を使ってアイデアをどんどん出してもらった。そのアイデアは多岐にわたり、学生たち自身でグループ化し、まとめさせた。その後、模造紙を使って発表をさせ、講評も行った。通常ならばこれで終わりという場合も多いと思うが、それだとせっかく出したアイデアが模造紙の上だけで終わり、内容も記録できていないことになってしまう。そこで、この模造紙をスマートフォンアプリの officeLens で PDF 化し、Moodle にアップロードすることで、自分たちの授業の内容を振り返ることができるようにした。



図 4 KJ 法 教員になるために必要な力とは

## 4 LMS (Moodle) ×生徒の授業実践

上記のような授業を一通り体験した後で、最終的には学生自身、授業を展開するための準備をしてもらう。学生の中には、パワーポイントを作成する者もいれば、知識構成型ジグソー法や KJ 法を使った者もいた。しかしながら、初めて学習した教育方法をすぐに実践に活かすことは難しい。そこで Moodle を使用し、学生には、指導案と教材を Moodle 内に提出させて、事前に確認及び助言を行った。学生の質問に対しても、Moodle 内で返答した。Moodle を利用する利点は、直接会わなくても瞬時に教材を見ながら助言できることである。

## 5 終わりに

今年度の「教育方法論」は、「LMS・AL・ICT を授業で活用できる教員を目指す」という目標を立てて授業計画をした。それは私自身の高校の現場経験を最大限に活かそうと考えていたからである。学生たちはその想いを受け取ってくれ、一生懸命についてきてくれたと感じている。それは生徒の授業アンケートに「この授業を受けてよかったですか」という間で高評価だったこと、「この授業の良い点について書いてください。」という問いに「現在の教育現場でどんなものが使われているのかを知れる」というコメントがあったからである。

日本は他国に比べて LMS の普及が遅いと言われている。それは「高等教育機関等における

ICTの利活用に関する調査研究」(文科省)で明らかである。しかしながら、この流れはまだまだ加速すると考えている。今回のこの実践報告が、未来の教員の一助となれば幸いである。

**【参考文献】**

平成 25 年度文部科学省先導的・大学改革推進委託事業「高等教育機関等における ICT の利活用に関する調査研究」

**【要旨】**

LMS を使った AL 型の授業や ICT 機器を使った教育方法に触れ、実際に学生たちだけで授業を作り、実践するための実践報告である。

**【キーワード】**

LMS Moodle ICT アクティブ・ラーニング マッピング KJ 法 Youtube QR コード